

令和 7 年度
附 属 小 ・ 中 学 校

教育実習の手引きと記録簿

学 籍 番 号		所 属	専修	登 録 番 号
実習生氏名				小 ・ 中 番

配 属 学 級 年 組

担 当 教 諭 _____

配 属 教 科 _____

教科指導教諭 _____

教育実習期間 小学校 : 8 月 22 日 (金) ～ 9 月 19 日 (金)

中学校 : 8 月 21 日 (木) ～ 9 月 19 日 (金)

琉 球 大 学 教 育 学 部

実 習 生 個 人 票

実 習 期 間	月 日 () ~ 月 日 ()	
所 属	専修	写 真 4cm×3cm
学 籍 番 号		
ふ り が な		
氏 名		
学 部	教 育 実 習 委 員 氏 名	年 次 指 導 教 員 氏 名
大学における活動 (専門・部活等)		
社会における活動 (ボランティア等)		
趣味・特技 免許・資格等		
教育実習に対する 抱負と指導を仰ぐ 附属学校の先生方 への自己紹介 ※これまでの教育実 習関連科目（教職体 験Ⅰや教職体験Ⅱな ど）を踏まえて、抱 負を具体的に述べる こと。		

目 次

I 教育実習生の手引き

1. 教育実習の意義	1
2. 教育実習の目的	1
3. 授業実習の時間数	1
4. 教育実習にあたっての心得	1
5. 教育実習生の服装・身なり	2
6. 教育実習生の勤務	3
7. 教育実習の評価	4
8. 学校の組織運営（校務分掌組織図）	6
9. 教科等の指導	7
10. 教育実習中の心身の健康管理	8
11. 教育実習中の危機管理	9
12. 教育実習の辞退及び中断における対応	13
13. 教育実習後の対応	13
14. 児童生徒理解	13
15. 教育実習の形態	14
16. 観察実習の視点	14
17. 授業設計の基本	15
18. 授業研究会	16
19. 教育実習記録簿の記入上の留意点	16

II 附属小・中学校

1. 教育目標	20
2. 日程・週時程	22
3. 指導案様式	24

III 授業観察および模擬授業の記録

1. 授業観察の記録	37
2. 模擬授業の記録	39

IV 教育実習の記録

1. 座席表	43
2. 教育実習の記録	45

I 教育実習生の手引き

1. 教育実習の意義

教育実習は将来教師を目指している学生が講義等で学んだ諸々の教育理論を体験的・実践的に検証、確認することを通して、児童生徒理解及び授業づくり、教職等について学ぶ唯一の機会と言えます。教職の場合は、他の多くの職業と異なり、採用後直ちに教壇に立ち、学校・保護者・地域・社会に対しても、教師としての責任を負わなければなりません。このように考えると、教育実習は、皆さん一人一人が「学生」ではなく、「先生」として見られ、自覚と責任のある行動が求められる欠くことのできない重要なものであることが分かります。また、教育実習を通して、自分自身に教師となるための資質や能力、適性が備わっているかを判断したり、教職を志望していく上での自らの課題を見つけたりすることが重要となります。

2. 教育実習の目的

- (1) 児童生徒の実態を把握し、教育活動についての理解を深める。
- (2) 教育環境・教育活動全般にわたる認識を深める。
- (3) 教員として児童生徒を指導するのに必要な専門的な技術を習得する。
- (4) 教育実習における様々な課題に対して、積極的に解決しようとする態度を身に付ける。
- (5) 教育者としての愛情を深め使命感を持ち、教員としての資質・能力や適性について自覚する。

3. 授業実習の時間数

- (1) 一人当たり5時間以上の授業実習を行う。(小学校においては1単位時間45分、中学校においては1単位時間50分とする)
- (2) 「総合的な学習の時間」に関しては授業実習を行わない。
- (3) 小学校における授業実習では、道徳または特別活動から1時間以上行うようにし、原則として、1教科に偏ることなく複数教科で授業実習を行う。中学校における授業実習では、道徳、特別活動はそれぞれ1時間以上を実施する。

4. 教育実習にあたっての心得

教育実習は、「教職に就くことを強く志望する者」にのみ参加の機会を与えられた特殊できわめて重要な実習科目です。無資格でありながら授業を担当する機会が与えられ、専門職と同等の経験ができるという特徴があります。半面、その対象は日々成長、発達をとげつつある児童生徒ですから、甘えや怠慢は許されません。観察、参加および授業実習を通じて、教育の理論と実践の基礎的能力を養い、教育実践力を身に付けていく意識を持って参加してください。

実習生は、以下のことをしっかり守って教育実習に臨むことが大切です。なお、教育実習の指導は、大学側の教員と附属学校の教員が協力して担当することになっていますが、実際には附属学校の校長、教頭、実習主任と担当教諭が主にこの指導にあたっています。従って、附属学校における勤務及び行動は、附属学校の方針や指示に従うことが重要です。また、教育実習の前後及び期間中は、授業の準備や振り返りに多くの時間を要するので、実習に専念できる環境を常に整えておくことが大切です。

- (1) 教育実習に参加できる学生は、これまでに麻疹予防ワクチンの接種歴が（１歳以上で）２回以上あること、麻疹の罹患歴があること、又は「麻疹抗体価検査」による検査結果が陽性であることのいずれかを、記録で確認できる者を原則とする。
- (2) 風疹、水痘、おたふくかぜの予防ワクチン接種を、これまでに２回以上受け、その抗体ができていることが望ましい。
- (3) 実習期間中は、児童生徒にとって実習生も教師である。教師としての責任と自覚を持った行動をする。
- (4) 附属学校の服務規程に従い、積極的な態度で教育実習にあたる。
- (5) 言語・服装容儀・挙動に注意し、実習学校教職員にはもちろん、児童生徒・保護者に対しても気持ちよいあいさつをする。
- (6) 実習期間中に知り得た個人情報、絶対に外部の者に漏らさないこと。また、実習に関する内容はSNSで情報発信してはならない（匿名、加工済画像、限定公開も不可）。実習後も、これらの守秘義務を守る。
- (7) 様々な教育活動等には、時間に余裕を持って臨み、遅れることがないようにする（時間厳守）。
- (8) 見通しのある計画を持って、参加・観察・授業実習に心がける。
- (9) 教材研究を深め、学習指導計画案を作成し、指定された日の前日までに担当教諭に提出する。
- (10) 担当教諭をはじめ他の先生方に対して、積極的に指導助言を請うようにし、その指導助言に対しては、どんな些細なことでも素直に受け止め、改善に努める。
- (11) 日々の実習について振り返り、その日のうちに教育実習記録簿に記し、担当教諭の押印をもらうこと。
- (12) 児童生徒に対する指導においては、次の点に配慮する。
 - ① 児童生徒の気持ちに寄り添い、児童生徒とのふれ合いをできるだけ多く持つように心がける。
 - ② 指導にあたっては、公平で親しみのある態度で接し、努めて児童生徒と関わり合う機会を多く持つようにする。ただし、１対１での指導や度を越えたスキンシップについては行わないこと。
 - ③ 児童生徒の安全の確保や健康状態に、常に配慮し、必要に応じて担当教諭や養護教諭に連絡・相談・報告する。
 - ④ 児童生徒に対して絶対に体罰・ハラスメントを行ってはならない。
 - ⑤ 教育実習の期間中、実習終了後においても、附属学校の担当教諭の承認なしに児童生徒を校外に引率してはならない。登下校や休日に会うこともしてはならない。
 - ⑥ 児童生徒とSNS（ライン等）やメール、通話での情報のやり取りをしてはならない。
 - ⑦ 児童生徒の前で実習校の教職員や保護者、大学教員の批判をしてはならない。
- (13) 実習期間中は、実習先の教職員とアルコールを伴う飲食をしてはならない。



5. 教育実習の服装・身なり

- (1) 本学における教育実習中の服装は、TPOに応じて下記の①、②を基本とする。
 - ① 附属学校へのあいさつ（実習前・後）、児童生徒及び職員との初顔合わせ、研究授業において
→ 正装（リクルートスーツ）または 白のワイシャツにネクタイ、白のブラウス
 - ② 通勤時、観察実習、参加実習、授業実習等において
→ 白のワイシャツにノーネクタイ、白のブラウス（正装でも構わない）
 - ③ 授業実習、参加実習において、①、②以外の服装を着用する場合には、実習先の担当教諭に確認する。
- (2) 教育実習中は、常時名札をつけること。名札の様式は、教職センターのHPからダウンロードする。
名札（両面記入）の長さは、児童生徒の見やすさを考えて、ワイシャツの第三ボタンの位置に調整する。
- (3) 身なりは、華美にならず、清潔、清楚を心がける。

名札について

<見本>

教 育 実 習 生 琉 球 大 学 ○ ○ 学 部 教科名 理 科(小学校は学年) りゅうきゅう たろう 琉 球 太 郎	学名：15ポイント程度 科名：15ポイント程度 ふりがな：12ポイント程度 氏名：28ポイント程度
---	---

6. 教育実習生の勤務

実習期間中の勤務態度は、教育実習を行う上で最も基本的なものです。また、良好な勤務態度は、一人の社会人、職業人として、身に付けておかなければならない大切な資質でもありますので、下記の事項に留意して臨みましょう。

- (1) 実習生は、学校長をはじめとする附属学校教員の指導の下で実習にあたること。
- (2) 勤務時間は附属学校の教員に準ずるものとし、8時までに出勤すること。
- (3) 勤務時間は原則、小学校が8時15分～16時45分、
中学校が8時15分～17時00分
となっているが、各自で事前に附属学校の勤務時間を確認しておくこと。
- (4) 出勤したら、直ちに実習生出勤簿に押印すること。(認印は可。シャチハタは不可)
- (5) 勤務時間内にやむを得ず校外に出る場合は、必ず担当教諭および教頭の許可を得ること。
- (6) 勤務を終えたら、担当教諭及び職員室にいる教員、事務職員にひと声掛けて帰宅すること。
- (7) 原則として遅刻、早退、欠勤は認めない。しかし病気または事故等、やむを得ず欠勤、遅刻、早退をしようとする時は、学校と学務係に連絡をして、附属学校担当教諭または実習主任、教頭先生の許可を得ること。その上で、必ず下記の手続きを行うこと。(附属小における電話による対応開始時間は8:15)
 - ① 欠勤 始業30分前までには電話で連絡し、後日、欠勤届を担当教諭へ提出する。
 - ② 遅刻 遅刻した時には、速やかに遅刻届を担当教諭へ提出する。
出勤途中にもし遅刻しそうになったら電話で「遅れること」を連絡する。
 - ③ 早退 早退前に担当教諭または教頭の許可を得ることと併せて早退届を担当教諭へ提出する。
- (8) 欠勤・遅刻または早退により、実習の時数及び日数が不足する場合には、補講等により所定の教育実習時間または日数を確保すること。ただし補講については、P1「3. 授業実習の時間数」に従い附属学校と調整して実施すること。
- (9) 学校感染症及び3親等内の忌引き以外の欠勤が3日以上となり、補講の対応が困難であると附属学校が判断した場合には、教育実習は中断となるので留意すること。
- (10) 指定された提出物の提出遅延や深刻な不備など、教育実習の継続が困難であると附属学校が判断した場合には、教育実習は中断となるので留意すること。

- (11) 3親等以内の忌引きの場合の勤務については、指導教員を通して教頭と調整し対応すること。
- (12) 実習期間中においては、教育実習への影響が懸念されるため、サークル活動及び大会等への参加は認められないので留意すること。

7. 教育実習の評価

教育実習の評価は、下記のⅠ、Ⅱの評価基準に基づき総合的に行われる。

Ⅰ. 勤務状況 (20%)

「6. 教育実習生の勤務」の内容を踏まえ、欠席、遅刻、早退の有無や回数などの勤務状況进行评估する。

Ⅱ. 評価の観点 (80%)

下記の6つの評価の観点について、実習校の担当教諭の評価意見、教育実習記録簿の記載内容等をもとに総合的に評価する。

「勤務態度」(整容、担当教諭との連絡・調整や報告・連絡・相談の実施など)

「基本的態度」(子ども、教師、他の実習生、来校者との関わり方、言葉遣い、他の実習生との協力など)

「学習指導案」(提出期限の厳守、内容、担当教諭の指導を受けた作成など)

「教壇実習」(声量、発問、指示、机間指導、板書、教材・教具、授業リフレクションへの参加態度など)

「実習記録簿」(提出期限の厳守、内容など)

「学級活動」(健康観察や安全指導、給食・清掃指導など)

ただし、下記の場合は教育実習の単位を認定しないので留意すること。

- (1) 実習の所定時間を満たさない場合。
- (2) 無断欠勤、学校感染症及び3親等以内の忌引き以外の3日以上欠勤、不適切な態度、提出物の遅延や未提出があるなど、教育実習の実施または継続が困難だと附属学校が判断する場合。
- (3) 評価基準Ⅰ、Ⅱの合計点が60%に満たない場合。

出 席 番 号	
------------------	--

提出日：令和 年 月 日（ ）

教育実習 (欠勤・遅刻・早退) 届

※該当するものを○で囲むこと。

専修・コースの実習委員 _____ 先生

附属（小・中）学校担当教諭 _____ 先生

_____ 学部 _____ 学科 教科名 _____		
氏 名 _____	印 _____	学籍番号 _____ 年次 _____
連絡先（携帯電話番号） _____		
メールアドレス _____		

----- 下記の通り、提出いたします -----

1 講義科目 **教育実習**

2 欠勤の期間 (自) 令和 年 月 日 ()

(至) 令和 年 月 日 ()

遅刻・早退の日時 (自) 令和 年 月 日 ()

時 分 (遅刻入室・早退)

3 理由（詳細、かつ具体的に書くこと）

4 提 出 先

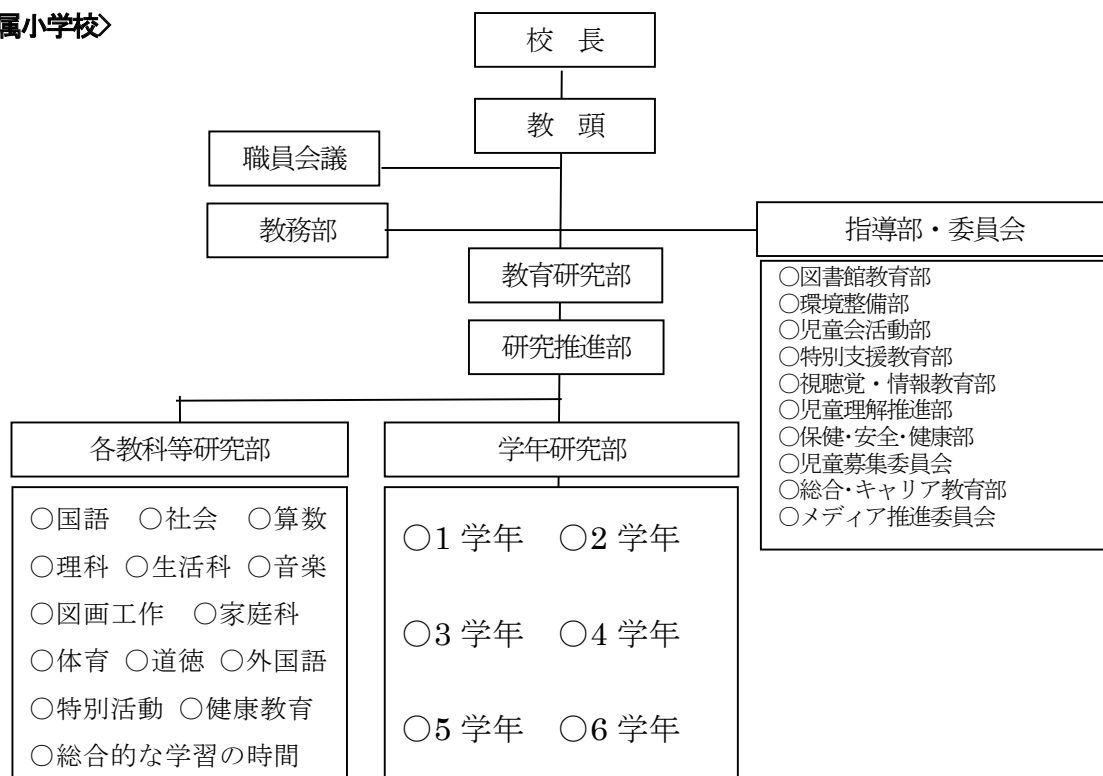
○ この届は、理由を明記して、附属学校の実習主任、または教頭に提出すること。

※「教育実習の手引き」P3「6. 教育実習生の勤務」に従うこと。

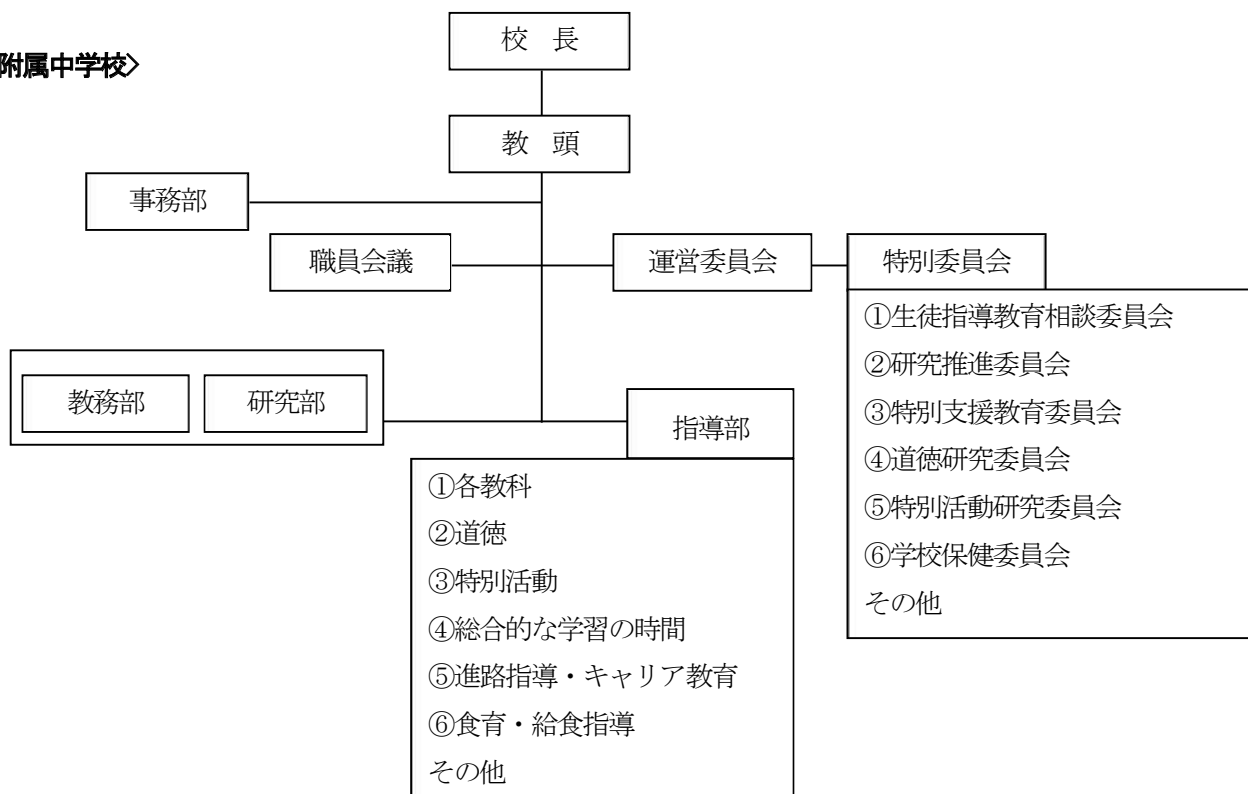
8. 学校の組織運営（校務分掌組織図）

学校の教育課程は学校長の指導監督の下に学級、学年会、生徒指導委員会、教科会、各種委員会活動などの校務分掌を基に運営されています。実際にはここで表記できない様々な校務分掌があり、それらが機能的に連携し運営されていることを附属学校の校務分掌組織図を見ながら理解するようにしましょう。

〈附属小学校〉



〈附属中学校〉



9. 教科等の指導

教育実習においては、教科等の指導についての取組が最も重要になります。学習指導要領に明示されている「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、教材研究を深め、学習評価を工夫した授業構成を考えていきましょう。

(1) 一人一人の児童生徒が楽しいと感じるような授業

① 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業を目指す

下記の3つの学びを意識した授業改善に努める。

ア 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

イ 【対話的な学び】

児童生徒同士の協働、教員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

ウ 【深い学び】

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じて育まれる見方・考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解や資質・能力の育成、学習への動機付け等につながる「深い学び」が実現できているか。

② 学び合う場を設定する

授業のよさは、一人一人の学びを交流し合い、深め合うところにある。授業のなかで学び合う場を意図的・計画的に設定し、学び合いを行わせることが求められている。その活動を通して、授業（本時）の目標を達成することが重要になる。



(2) 教材研究の方法

① 教科内容について理解を深める

教科等の指導に当たっては、まず、教師自身が教科内容そのものについての幅広い知識を持ち、理解を深めておく必要がある。

② 教材のねらいを明らかにする

教材内容を分析・検討し、単元全体をつらぬく中心的なねらいと児童生徒に身に付けさせたい力を明確にする。それが教科目標や学習目標とどのように関連していくのかを明らかにする。

③ 指導計画を立てる

ア. 指導の方法と順序を考える。

イ. 1単位時間ごとの目標（本時のねらい）と学習内容を決める。

ウ. その目標や内容に応じて、授業の組み立てや学習形態、発問・助言・指示・資料や教材・教具、ICTの活用、板書計画、ノート指導など、様々な指導の方法を考える。

指導方法の工夫として次のことを考慮する。

・教師の指導と児童生徒の自主的な学習活動を適切に組み合わせ、体験的な学習活動を取り入れること



(3) 学習評価

① 評価の目的

学習評価は、学校における教育活動に関し、児童生徒の学習状況を評価するものである。「児童生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師の指導の改善を図るとともに、児童生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことが重要である。

② 実際の評価

実際の評価においては、各教科等の目標の実現に向けた学習の状況を把握するために、指導内容や児童生徒の特性に応じて、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫し、学習の過程の適切な場面で評価を行う必要がある。その際には、学習の成果だけでなく、学習の過程を一層重視することが大切である。特に、他者との比較ではなく児童生徒一人一人のもつよい点や可能性などの多様な側面、進歩の様子などを把握し、学年や学期にわたって児童生徒がどれだけ成長したかという視点を大切にすることも重要である。実際の評価にあたっては、「指導と評価の一体化のための学習評価に関する参考資料」（文部科学省 国立教育政策研究所 2020.3）を参考にすること。

③ 評価の主体と対象

評価は教師による評価とともに、児童生徒による相互評価や自己評価等がある。相互評価や自己評価は、児童生徒自身の学習の向上にもつながることから重視する必要がある。また、学習評価を行っていくためには、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作等といった多様な活動を評価の対象とし、ペーパーテストの結果にとどまらない、多面的・多角的な評価を行っていくことが必要である。

10. 教育実習中の心身の健康管理

教育実習は、限定された期間に集中して行われるので、各自の心身の健康管理には、普段より一層気をつける必要があります。

- (1) 食事・睡眠時間の確保など、規則正しい生活を心がける。
- (2) 実習中に困ったこと、不安なことが生じたら、附属学校の担当教諭や学部の教育実習委員、ゼミの指導教員、年次指導教員などに気軽に相談をする。
- (3) 学校感染症（P12 参考資料「学校保健安全法施行規則に定められた学校感染症一覧」参照）への対応については、次の通りとする。
 - ① 感染症の感染の疑いがあるときは、直ちに学校に連絡し速やかに医療機関で受診する。
 - ② 診断結果が判明するまでは、自宅待機とし、外出はしない（附属学校へは絶対に出勤しない）。
 - ③ 診断の結果、感染している場合には、自宅待機を継続し、治療に専念する。完治した後、速やかに出勤し実習を再開する。
 - ④ インフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症については、P11 の「出勤停止期間早見表」を参照して、出勤可能日を確認し、P10 の「回復届出書」を欠勤届出等と併せて附属学校の担当教諭へ提出する。
- (4) 体調不良の時には、附属学校の担当教諭に許可を得て、養護教諭と相談の上、早退すること。



11. 教育実習中の危機管理

教育実習中は、心身の健康管理以外にも下記の危機管理を意識し、適切な対応をしましょう。

(1) 交通事故に対する対応

- ① 教育実習期間中の出退勤の際、交通事故に遭った場合には、速やかに附属学校へ連絡し、その後の対応については学校の指示に従うこと。後日、附属学校へ欠勤・遅刻届を提出すること。
- ② 人身事故の場合には、対応後、速やかに学部事務の学務係へも報告をすること。

(2) 台風等の自然災害に対する対応

- ① 台風の際、児童生徒は休校となるが学校職員は必ずしも休みとはならないので、出勤前に暴風警報が発令されていても次のことを確認し対応すること。
 - ・暴風警報が発令されていて、バスの運行が停止している場合は、業務停止となる（休み）。
 - ・暴風警報が発令されていても、バスが運行しているときは、原則勤務となるが、附属学校の教頭または担当教諭に連絡を取り確認する。※事前に、台風の場合の勤務の取り扱い（業務停止や業務再開）については、必ず確認をしておくこと。
- ② 地震等その他の自然災害については、附属学校へ連絡し対応を確認すること。ただし、附属学校と連絡が取れない場合は、大学の教育実習委員またはゼミの指導教員、あるいは年次指導教員のいずれかに連絡を取り対応を確認すること。

(3) 実習を続けていくことに不安を感じた場合の対応

実習を続けていくことに不安を感じた場合には、直ちに附属学校へ体調不良のため欠勤する旨を伝え、次の手順にしたがって行動する。

- ① 学部の教育実習委員及びゼミ等の指導教員、年次指導教員のいずれかに連絡し、詳しく内容を伝え相談すること。
- ② ①の相談の結果、必要があれば、大学の他教員や保健管理センター、またはその他の機関に相談すること。

※ 誰にも連絡せず、黙って実習を欠勤する事がないようにする。

教育実習委員の連絡先	()
ゼミの指導教員の連絡先	()
年次指導教員の連絡先	()
学部の学務係の連絡先	()

<教育学部教職係を経由して>

琉球大学保健管理センター

098-895-8144

インフルエンザおよび新型コロナ回復届出書

学籍番号

氏名

1. 発症した日 令和 年 月 日 ()

2. 受診について

(1) 受診した日 令和 年 月 日 ()

(2) 医療機関名 ()

3. 診断結果 インフルエンザ A 型 ・ インフルエンザ B 型 ・ 新型コロナ

4. 解熱した日 令和 年 月 日 ()

5. 《出席停止期間中の体温測定結果》

	← 最低限の出席停止期間 →							
	発症日 (0 日目)	発症後 1 日目	発症後 2 日目	発症後 3 日目	発症後 4 日目	発症後 5 日目	発症後 6 日目	発症後 7 日目
月 日	/	/	/	/	/	/	/	/
朝 (時)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃
夕 (時)	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃	℃

【インフルエンザの場合】発症後 5 日を経過し、かつ、解熱後 2 日を経過

【新型コロナの場合】発症後 5 日を経過し、かつ、症状が軽快した後 1 日を経過

し、体調が回復したことを報告いたします。

令和 年 月 日

氏名

印

《お願い》

* インフルエンザの出席停止期間は「発症後 5 日を経過かつ解熱後 2 日経過するまで」、新型コロナの出席停止期間は「発症後 5 日を経過しかつ症状が軽快した後 1 日を経過するまで」となっています。その期間は自宅で休養してください。

* 発症日は発熱した日とすることが多いですが、発熱以前に咳やのどの痛みなどの風邪症状が出ていた場合はかかりつけ医と相談してください。また、無症状の新型コロナ感染については検査日を発症日とします。

* 出席停止期間を経過しても体調がすぐれない場合は、出勤・受講等の再開を控えてください。

* 回復届は担当教員へ提出してください（病院で治癒証明書を発行してもらう必要はありません）。

インフルエンザ出勤停止早見表

発熱 期間	発症日 0日目	発症後 1日目	発症後 2日目	発症後 3日目	発症後 4日目	発症後 5日目	発症後 6日目	発症後 7日目	発症後 8日目	発症後 9日目
1日							登校 可能			
2日							登校 可能			
3日							登校 可能			
4日								登校 可能		
5日									登校 可能	
6日										登校 可能



発熱



解熱

* 発症後3日目までに解熱したら, 発症後6日目には出勤・受講が可能になります。

発症後4日目以降に解熱した場合は, 解熱した日を0日目として, 2日経ったあとに出勤・受講が可能になります。

新型コロナ出勤停止早見表

発熱 期間	発症日 0日目	発症後 1日目	発症後 2日目	発症後 3日目	発症後 4日目	発症後 5日目	発症後 6日目	発症後 7日目	発症後 8日目	発症後 9日目
1日							登校 可能			
2日							登校 可能			
3日							登校 可能			
4日							登校 可能			
5日								登校 可能		
6日									登校 可能	
7日										登校 可能



発熱



症状軽快

* 発症後4日目までに症状軽快したら, 発症後6日目には出勤・受講が可能になります。

発症後5日目以降に症状軽快した場合は, 症状軽快した日を0日目として, 1日経ったあとに出勤・受講が可能になります。

学校保健安全法施行規則に定められた学校感染症一覧

	感染症	出席停止期間の基準		特徴	
第一種	エボラ熱、ペスト などの指定感染症	治癒するまで		発症はまれだが 重大な感染症	
第二種	インフルエンザ	発症後5日を経過し、かつ解熱後2 日を経過するまで	※症状により学校医その他の医師において伝染の恐れなしと認めた時は その限りでない	飛沫・接触感染し 流行拡大の恐れが ある感染症	
	新型コロナウイルス 感染症	発症後5日を経過し、かつ症状軽快 後1日を経過するまで			
	百日咳	特有の咳が消失するまで または5日間の適正な抗菌剤によ る治療が終了するまで			
	麻疹 (はしか)	解熱したあと3日を経過するまで			
	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺の腫脹(腫れ)が発現した後 5日を経過し、全身状態が良好にな るまで			
	風疹 (3日はしか)	発疹が消失するまで			
	水痘 (水ぼうそう)	すべての発疹が痂皮(かさぶた)化 するまで			
	咽頭結膜熱 (プール熱)	主症状が消退した後2日を経過する まで			
	結核	病状により学校医その他の医師において感染 の恐れがないと認められるまで			
	髄膜炎菌性髄膜炎				
第三種	流行性角結膜炎、腸 管出血性大腸菌感染 症(O-157)、細菌性 赤痢、溶連菌感染 症、感染性胃腸炎な ど	病状により学校医その他の医師において伝染 の恐れがないと認めるまで		放置すれば流行 拡大する可能性の ある感染症	

【参考】琉球大学保健管理センターHP「学校感染症一覧」

12. 教育実習の辞退及び中断における対応

実習を事前に辞退する場合、または実習を続けていくことが困難で中断に至った場合は、速やかに附属学校へ辞退の連絡を行い、所定の手続きを行って下さい。具体的には以下の手順に従って下さい。

- (1) 附属学校の教頭へ教育実習辞退の意思を伝える。その際、直接口頭で伝えることが望ましいが、附属学校へ赴く事が困難な場合は必ず電話で連絡する。併せて、辞退届の提出は、後日持参または郵送する旨を伝える。
- (2) 附属学校へ辞退の連絡を行った後、速やかに学部の教育実習委員にも辞退の連絡を行う。
- (3) 学部事務室の学務係へ申し出て、所定の手続きを行う。
- (4) 手続きが完了したら、速やかに附属学校へ辞退届を提出する（持参または郵送）。

13. 教育実習後の対応

- (1) 教育実習終了後1週間以内に、附属学校の校長、担当教諭、児童生徒に対してお礼状を出すこと。
- (2) 教育実習終了後、速やかに学部の学務、実習担当教員、ゼミ担当教員、年次指導教員に実習終了の報告を行うこと。

14. 児童生徒理解

短期間の教育実習を充実したものにするためには、その期間でどれだけ児童生徒理解を深め、児童生徒との信頼関係を築くことができるかが重要です。成功体験を語るよりも、失敗体験をどのように克服したのか、あるいはなぜ克服できなかったのかを具体的に語る方が、児童生徒は実習生に対して親近感を覚えます。

- (1) 授業を受け持つクラス全員の児童生徒の氏名をできるだけ覚えること。
- (2) 休み時間、昼食時間、清掃時間、放課後等において、積極的に児童生徒に話しかけること。
- (3) 学級担任をはじめ、教育相談担当、養護教諭、生徒指導主事、スクールカウンセラーなどから児童生徒との関わり方や生徒指導のあり方等の話を聞くように心がけること。



15. 教育実習の形態

観察実習、参加実習、授業実習には、積極的に取り組みましょう。

(1) 観察実習

観察実習は、附属学校の先生方の様々な教育活動を参観しながら、授業の進め方、板書の仕方、児童生徒に対する発問の仕方、授業における児童生徒と教師の双方向のコミュニケーションのあり方、授業における児童生徒の様子、学校生活の様子、学習環境等の観察をとおして、児童生徒理解や授業実践力を高めることを目的としています。多くの教師の授業を積極的に観察しましょう。

(2) 参加実習

参加実習は、教科担任や学級担任、部活動顧問の指導のもとで、実際の様々な教育活動に参加したり手伝ったりしながら教師の仕事の内容を体験的に学び、児童生徒理解や授業実践力を高めることを目的としています。体験に勝るものではありません。積極的に参加しましょう。

(3) 授業実習

授業実習は、観察実習や参加実習の経験などを活かして作成した学習指導案を基に、実際に実習生が自ら担当教諭の指導の下で、教科等の指導（道徳を含む）、特別活動等の授業を行うことを目的としています。授業を行うに当たっては、綿密に教材研究を行い、学習指導案を作成し、児童生徒一人一人の実態に沿った教材・教具及び発問等を工夫することが大切です。その際に、「わかる、できる、楽しい」と感じるような授業を目指すことが重要です。

実習生がよく「今日の授業は失敗だった」と言う場合があります。失敗ではなく「今日の授業はうまくいかなかった。うまくいかなかったところを改善さえすればいい」とリフレーミングするようにしましょう。

16. 観察実習の視点

実際に授業を観察するときは、観察者として何をどのように参観すればよいのかを事前に明らかにすることが重要です。下記の視点を参考に観察を行うことによって、授業実習をよりスムーズに行うことができます。

(1) 教員の働きかけ

- ① どのようにして児童生徒の学習意欲を喚起しているか。
- ② どのようにして児童生徒の思考を引き出し、授業に取り入れているか。
- ③ どのようなタイミングで机間指導を行っているのか。
- ④ 視線、声の大きさや抑揚等は、どのようになされているか。



(2) 児童生徒の観察

- ① どのような場面において児童生徒は積極的に授業に参加しているか。
- ② 授業で積極的な参加がみられない児童生徒には、どのような特徴があるのか。その際、児童生徒の気持ちを共感的に理解することが大切である。

(3) 板書

- ① 児童生徒の理解につながる板書の工夫が行われているか。

② 児童生徒の思考に沿った板書の工夫が行われているか。

(4) 時間配分

導入、展開、まとめの一連の授業の流れにおける時間配分はどうなっているか。それを参考にして、指導案作成に活かすことが大切である。

(5) 教材教具

児童生徒の学習意欲を高めるために、どのような教材・教具の工夫がされているか。

※ 観察実習の記録について

観察実習後、その日のうちに、記録に取った授業の様子（授業者の発問や指示、児童生徒の反応、板書内容、時間配分等）を観察授業中に取ったメモをもとに、記録簿にまとめることが大切です。そして、授業者にお礼を述べるようにし、その際に感想や疑問点があれば、教えを請うようにしましょう。

17. 授業設計の基本

(1) 授業設計のポイント

授業の設計にあたっては、次のようなことを考えることが大切です。

本時の指導目標を明らかにし、何を理解させ、何ができるようになればいいのか、どのような力を育てようとしているのかを具体的に示すこと。

本時の授業において、どのような評価規準を作成すればよいか。

児童生徒に課題意識を持たせるためには、どのような教材・教具を工夫すればよいか。

児童生徒が意欲的に活動するには、どのように学習過程や学習活動を工夫すればよいか。

児童生徒の思考を助け促すために、どのように教材・教具や発問を工夫すればよいか。

(2) 児童生徒一人一人が、「今日の授業は楽しかった」と感じるような授業設計を行うことが最も大切

です。その様な授業では児童生徒が、自分なりに「わかった」「できた」と感じるような授業の工夫がなされています。児童生徒一人一人の実態に寄り添った授業を行うように心がけることが大切です。



18. 授業研究会

実習生は、教育実習期間中に研究授業を行わなければなりません。研究授業は、授業の質の向上を目的として行われるもので、実習生は事前に告知した授業実習を附属学校の教員、大学の実習担当教員や所属ゼミの教員などの参観者に公開します。研究授業後には、授業研究会が開催され、実習生自身の授業リフレクションや、参観者による指導・助言が行われます。

- (1) 研究授業の開催日を、附属学校の担当教諭と話し合い、早い段階で決める。
- (2) 大学の教育実習担当教員及び所属ゼミの教員に研究授業の日程を連絡し、参観及び指導助言を依頼する。
- (3) 授業研究会で指摘されたことを謙虚に受け止め、残りの教育実習に活かすようにする。
- (4) 授業研究会における反省点や指導助言に関しては、実習記録簿にまとめておく。

19. 教育実習記録簿の記入上の留意点

実習期間中の日々の記録は、「実習事項・内容」と「所感・反省」に分けられます。

例

- ① 観察実習・参加実習についての感想を書く。
- ② 教材研究、指導案作成について指導を受けたこと等を書く。
- ③ 授業実習についての反省、評価に対して指導を受けたことを書く。
- ④ 学級の児童生徒についての観察事項や感じたことを書く。
- ⑤ 生徒指導等、学級活動上の指導とその反省を書く。
- ⑥ 学校行事において、印象深かった事項の感想を書く。



(3) 記入方法・留意点

- ① 一つか二つかの事項に絞って具体的に書く。
- ② 記入する際は、字を丁寧に書くことを心がけ、鉛筆で下書きの上、黒のボールペンでなぞり、下書きを消して提出する。
- ③ 誤字・脱字・送り仮名等には留意し、特に略字は書かないようにする。
- ④ 論文体と話し言葉を混用せず、文体を統一する。また、俗語・絵文字・顔文字等のような表現は使わない。



※ 担当教諭の押印漏れがないかを確認する。

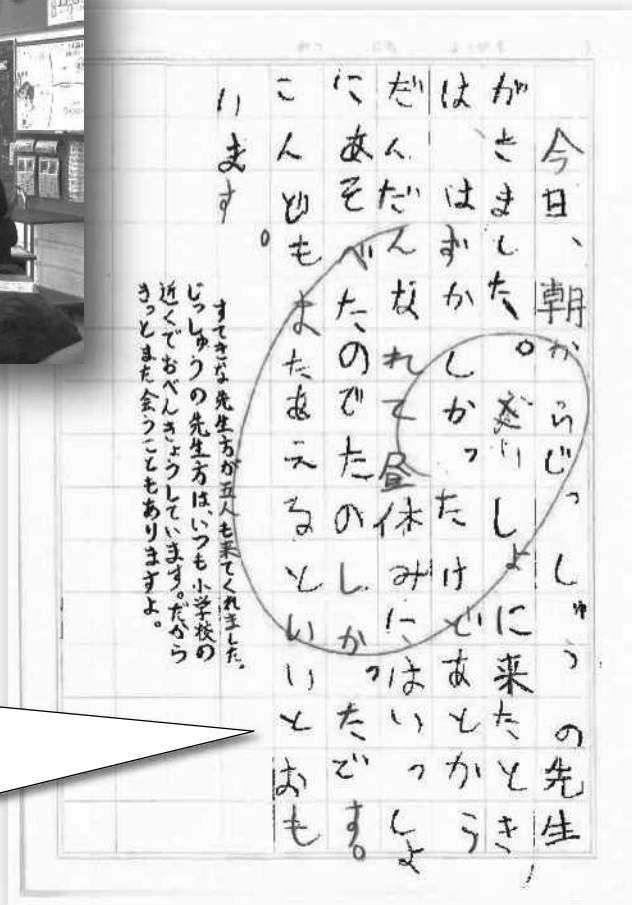
◎ 教育実習記録簿記入例

出勤	月	日	曜日	今朝の気分は	とても良い とても悪い 4 — 3 — 2 — 1	検 温	
	:	:	:			℃	
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容						
始 業 前	例) 朝の学級の様子を観察した。						
1	3 年 1 組 国語 観察実習		「文体を選択して書くには」の授業を参観した。				
2	数学の教材 研究		三平方の定理を説明するためのワークシートの準備・印刷				
3	3 年 1 組 数学 授業実習		図形を使って「三平方の定理」を証明する。				
4	数学の教材 研究		3 年 1 組で行った授業の反省と 3 年 3 組の授業実習の準備				
昼食・清掃 休憩	昼食は 3 年 1 組で取った。清掃は教室を手伝った。						
5	3 年 3 組 数学 授業実習		図形を使って「三平方の定理」を証明する。				
6	数学の教材 研究		「三平方の定理が成り立つ三角形はどんな三角形か」の授業の準備				
放 課 後	部活動参加 参加実習		野球部の顧問の指導の下で、練習に参加し児童生徒に守備練習の指導を行った。				
所 感 ・ 反 省	※「教育実習の手引き」の「18. 教育実習記録簿の記入上の留意点」の記入内容の例を踏まえて記入する。 ① 観察実習、参加実習についての感想を書く。 ② 教材研究、指導案作成について指導を受けたこと等を書く。 ③ 授業実習についての反省、評価に対して指導を受けたことを書く。 ④ 学級の児童生徒についての観察事項や感じたことを書く。 ⑤ 児童生徒指導等、学級活動上の指導とその反省を書く。 ⑥ 学校行事において、印象深かった事項の感想を書く。						
授業実習実施 時間	2 時間		観察実習実施 時間	1 時間		参加実習実施時 間	1 時間
※所感・反省は 11 行以上書くこと							
担当教諭の 所 見	担当教諭の押印漏れがないかを確認					印	

Ⅱ 附属小・中学校

1. 教育目標
2. 日課・週時程
3. 指導案様式

【附属小学校における教育実習生の授業実習の様子】



今日、朝からじゅ
うの先生がきました。さ
いしょに来たときは、は
ずかしかったけど、あと
からだんだんなれて昼休
みにはいっしょにあそべ
たのでたのしかったです。
す。こんどもまたあえる
といいとおもいます。

【附属中学校における教育実習生の授業実習の様子】



You are friendly. You are nice.
You are optimistic. You are cheerful.
So you are very exciting!!
I like you very much! You are my best friend!

中1女子の英語ノートより

1. 教育目標（附属小学校）

<教育目標>

一人一人が夢をもち、未来を生きる力のある子

21世紀は個性を大事にする時代であることを基盤に、一人一人が目的意識となる大きな夢をもち、自らの生涯となる未来を、自力で生きることができる子。

教育目標設定の基本的な考え

- 未来を生きる人間として、日本・世界を担う児童を育成する。
- 心身ともに健康で、心豊かな児童を育成する。
- 時代のニーズに貢献できる児童を育成する。
- 家庭・地域社会の特性や児童の実態に立脚する。
- 関連する法令に基づいて教育を行う。

<具体目標及び指標>

具体目標	指標：具現化された教育活動	具体化の方策
自ら学ぶ子 自ら価値あるものを求め、よく考え、進んで取り組む子	1 自分のめあてや課題を見つける。 2 学習の仕方（方法）がわかる。 3 自力で課題を解決する。 4 相手の考えをよく聞く。 5 お互いの意見を言い、学び合う。 6 学習を振り返り、見直し、修正する。	学習の場の充実 全校朝会、学年朝会 児童会活動の充実 多様な学習形態 読書活動の充実 家庭学習の充実
温かい子 思いやりの心を持ち、決まりを守り仲よく助け合う子	1 相手の気持ちを思いやりよさを認める。 2 決まりを守り、けじめをつける。 3 時間を守り、動作を機敏にする。 4 ねばり強く最後までやりぬく。 5 進んで奉仕活動をする。 6 友達と仲よく助け合い、協力し励まし合う。	児童会活動の充実 生徒指導、生活朝会 教育相談 委員会活動の充実 勤労生産活動 総合的な学習の時間の充実
健康な子 心身共にたくましく、体をきたえ、安全に行動する子	1 強い心をもつ 2 自分の健康状態を知る。 3 常に運動を楽しむ。 4 元気に活動し、体力をつける。 5 安全に気をつけて行動する。 6 自分で自分を守る。	安全指導の徹底 保健指導の充実 体験活動の充実 清掃活動の徹底 勤労生産活動の充実

学校経営

○ 学校経営の理念

生徒の未来を創る場である学校の担う役割は、生徒の『**学力保障**』と『**社会性の醸成**』である。そのため、学校の諸活動は、常にその達成を確認し、生徒の人格形成に資するものとなるよう努める。生徒にとって、**安全・安心な学習環境を整え、学力の質を高める理論と実践を追究し、自己有用感、自己効力感、自己肯定感を育み、社会の中で自己実現できるよう、計画的に指導・支援する**。「よく考え、豊かに感じ、自発的に行動する生徒の人間性を形成する」という教育目標の実現へ向け、**全職員が組織的・協働的・創造的に学校運営に参画**することで、生徒の可能性を重視した未来の展望が開ける学校経営を推進する。

1 教育目標

教育目標

よく考え、豊かに感じ、自発的に行動する生徒の人間性を形成する

めざす生徒像（エージェンシーを高める生徒）

本校で育成する生徒の資質・能力

【よく考え】	知識・技能	○根拠をもって、自己決定できる生徒
【豊かに感じ】	思考力・判断力・表現力	○自他を尊重し、協力し合える生徒
【自発的に行動】	学びに向かう力・人間性	○たくましく、最後までやり抜く生徒

めざす学校像（信頼される学校）

- 安全で安心して学び合う学校
- ともにに関わり合い支え合う学校
- 保護者や地域から親しまれ信頼される学校

めざす教師像（学び続ける教師）

- 教育者としての使命感と深い愛情のある教師
- 学びや支え合いを実感できる授業を実践する教師
- 向上心があり同僚性を構築できる教師

学校目標具現化の指標

○【よく考え】根拠をもって、自己決定できる生徒

- ①目標を明確に持ち、計画的に学習することができる。（見通す力）
- ②自ら課題を見つけ、進んで学習することができる。（向上する力）
- ③さまざまな場面で、筋道を立てて考えることができる。（整理する力）
- ④新しい考えや方法を生み出す努力をすることができる。（創造する力）
- ⑤思慮深く考え、自己決定を繰り返すことができる。（決定する力）

○【豊かに感じ】自他を尊重し、協力し合える生徒

- ①郷土の自然や文化を愛し、平和の尊さを理解できる。（理解する力）
- ②互いの立場を理解し、認め合い支え合うことができる。（共感する力）
- ③思いやりの心を持って、協力することができる。（協働する力）
- ④礼儀をわきまえ、感謝の気持ちを表すことができる。（表現する力）
- ⑤時間や物を大切にし、きまりを守ることができる。（自律する力）

○【自発的に行動】たくましく、最後までやりぬく生徒

- ①心身の健康を大切にし、安心安全に努めることができる。（自己管理力）
- ②責任を持って進んで働き、丁寧に取り組むことができる。（実践する力）
- ③困難に屈せず、さまざまな方法を試みることができる。（探究する力）
- ④問題を把握し、解決にあたることができる。（解決する力）
- ⑤最後まで集中し、粘り強く挑戦することができる。（挑戦する力）

2. 日課・週時程表（附属小学校）

	時刻	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日（特別清掃日）	金曜日
	7:30	児童玄関 解説※自律的に登校しましょう。				
	8:15～8:25	朝の活動（委員会活動・ヒカヒカタイム）／あいさつ運動／学校生活の準備				
	8:25～8:40	健康観察 ①～③特別活動 ④心のアンケート	健康観察 朝の読書	健康観察	健康観察 全体朝会／児童朝会	健康観察
		授業の準備・移動（5分間）				
1	8:45～9:30	①	②	③	④	⑤
		授業の準備・移動（10分間）				
2	9:40～10:25	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
		休憩（15分間）／授業の準備・移動（5分間）※10:45 予鈴				
3	10:45～11:30	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
		授業の準備・移動（5分間）				
4	11:40～12:25	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
給食・清掃	12:25～12:40	給食準備（15分間）				
	12:40～13:05	給食（25分間）				
	13:05～13:25	片付け・歯磨き・清掃（20分間）（木は特別清掃 13:05～13:15）				
学級縦割	13:25～13:40	自主的な時間／休憩（15分間） ※木の休憩は 13:15～13:40（25分間） ※予鈴 13:40				
		授業の準備・移動（5分間）				
5	13:45～14:30	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
		安全指導／授業の準備・移動（10分間）				
6	14:40～15:25	㉖	㉗	㉘委員会・クラブ	㉙	
児童下校		15:35				14:40
職員休憩		15:35～16:05			15:35～15:55	14:40～15:10
放課後		週案提出 8:30 授業リフレクション (学年会) 共同研究連携	①児童支援部 カンセリング 勉強会(月1回) ②児童募集委 ③部会・推進部 16:05	教育実習 (講話) 附属学校 運営委 ノー残業デー	職員連絡会 (職員会議) 16:00 学年会	校内研究 15:15

※週授業時数 1年:25 2年:26(火:6校時) 3年:28(月・火・木:6校時) 4～6年:29時間

※木曜日は短縮日課とし、清掃は5分間教室の特別清掃とする。木曜日のトイレ掃除は隣学年と相談して行う。

※月曜休日の時間を補うため、計画的に他の曜日に月曜日課の日を設ける。

※保護者の送迎は各駐車場までとする(緊急時は児童玄関まで)。

※給食時間や清掃は、終了時刻を守る。(終了時刻前に遊びに出ることのないようにする)

※下校時刻は厳守する。担任は児童玄関で見送り、週番は6年側玄関以外を施錠する。

(児童玄関の混雑を避けるため、児童を速やかに送り出すこと。また、施錠後の出入りは職員玄関で事務室に声をかけることを徹底すること。)

※職員休憩は2校時休み(15分)昼休み(15分)下校後(30分)とする。

※木曜日は連絡会に続き、基本的に学年会とする。会議もここに設定する。

※超過勤務が予想される場合は、教頭と確認を取り、校長の決裁を受けること。下校バス 14:35 15:45

2. 日課・週時程表（附属中学校）

令和7年度 週時程表										
(1) 普通日課										
始まり	終わり	配分	校時	月	火	水	木	金	A日課	
登校～	8:20	10分	朝の読書	読書	朝 会 全体 学年 生徒会	読書	読書	読書		
8:20	8:30	10分	朝の会	朝の会		朝の会	朝の会	朝の会	8:10	出席催 手
8:40	9:30	50分	1	①	②	③	④	⑤	8:20	9:10
9:40	10:30	50分	2	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	9:20	10:10
10:40	11:30	50分	3	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	10:20	11:10
11:40	12:30	50分	4	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	11:20	12:10
12:35	12:50	15分	給	準 備					12:15	12:30
12:50	13:10	20分	食	会 食					12:30	12:50
13:15	13:30	15分	清掃	清 掃					12:55	13:10
13:30	13:45	15分	休憩	ふれあいタイム					13:10	13:25
13:50	14:40	50分	5	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕	13:30	14:20
14:50	15:40	50分	6	㉖	㉗	㉘	㉙		14:30	15:20
15:45	15:55	10分	帰 り の 会					⑤帰りの 会 14:45 ～14:55	15:25	15:35
17:00			総 下 校							
※ 5校時の時の「帰りの会」は14:45～14:55										
◇ 朝会または集会 第1火曜日→全体 第2火曜日→1・2学年 第3火曜日→3学年 第4火曜日→生徒会										
◇ 部活休養日 毎週水曜日・日曜日										

第○学年 ○○科学習指導案

令和○年○月○日（曜日）○校時

○年○組 ○名

授業者 ○○ ○○ 印

指導者 ○○ ○○ 印

教科によっては題材名となる場合があります。

例：音楽，図工など

1 単元名(題材名)

2 単元(題材)の目標

- (1)
- (2)
- (3)

指導書の目標を参考に3つの観点で作成して下さい。

(知識及び技能)

(思考力，判断力，表現力等)

(学びに向かう力，人間性等)

3 単元(題材)について

(1) 教材観

本単元は，小学校学習指導要領の第3学年「A 数と計算」(4) 除法に関わる内容であり，除法に関わる数学的な活動を通して，「数量の関係に着目し，必要に応じて具体物や図などを用いて計算の仕方を考察する力」等の資質・能力の育成を目指している。具体的には，～

本単元（題材）で身に付けさせたい資質・能力を明確にします。

学習指導要領のどの内容を受けて設定した単元（題材）なのかを明確にします。

本時との関連についても記述します。

(2) 児童観

本学級の児童は，2年生で学習したかけ算九九がしっかりと定着している児童が多い。しかし3名の児童がかけ算九九の習熟が十分ではないことがわかった。

想定する学級をイメージして記述して下さい。

(3) 指導観

本単元では，上記の教材観及び児童観を踏まえ，○○の資質・能力の育成を図るために，～

本単元（題材）で身に付けさせたい資質・能力を明確にします。

「教材観」「児童観」と対応させて記述します。

本時との関連についても記述します。

指導書を参考にして書いて下さい。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度

5 単元の指導と評価の計画(口時間)

時	ねらい(◎) ・ 学習活動(■)	評価規準 (評価方法)
1	◎ ■	指導書を参考にして書いて下さい。
2	◎ ■	
3	◎ ■	
4	◎ ■	
5	◎ ■	
6	◎ ■	
7	◎ ■	
8	◎ ■	

6 本時の学習 【○/口時間】

(1) 目標

「5 指導と評価の計画」の本時のねらいと整合性を図ります。

(2) 授業の工夫・手立て

例①：～に着目させることにより，～に気付くことができるようにする。

例②：～と問うことで，～について考えることができる。

例③：～を用いることで，～できるようにする。

(3) 展開

過程	学習活動	指導上の留意点 予想される児童の反応・評価規準
導入 () 分	1	予想される児童の反応（発言，考え，姿等）を具体的に記述します。
展開 () 分	2	予想される「めあて」を記述します。
	めあて	
	3	【予想される児童(生徒)の反応】
	4	5「単元の指導と評価の計画」の評価規準と本時の評価規準との整合性を図ります。
終末 () 分	5	
	6	

本時の評価規準を記入します。

(4) 本時の評価規準

【思・判・表】 除法が用いられる場合の数量の関係を，具体物などを用いて考えている。

(5) 板書計画

学習指導案の作成に当たって、以下の資料を参考にしてください。

- (1) 「学習指導要領解説」(各教科) H29 年 7 月
- (2) 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』
(小・中) R2 年 3 月
- (3) 学習評価の在り方ハンドブック R 元年 6 月

令和〇〇年〇月〇日(曜日)〇校時

琉球大学教育学部附属中学校

〇年〇組 〇名

授業者 〇〇 〇〇 印

指導者 〇〇 〇〇 印

1 単元名

教科によっては、題材名となる場合があります。 例：音楽、美術、技術家庭等

2 単元の目標

単元、小単元、題材など、教科によって指導計画を作成する際の「内容のまとまり」の捉え方が異なります。そのまとまりを踏まえ指導計画上の目標を設定することが大切です。目標は、各教科の特性を生かし、3観点を踏まえて総括的に記述したり、観点ごとに記述したりします。 ※参考資料(3)参照

3 単元について

(1) 教材観 ※体育科の場合は、(1)運動の特性、(2)子どもから見た動きの楽しさ

- ①学習指導要領のどの内容を受けて設定した単元(題材)なのか明確にします。
例：本単元は、学習指導要領第2学年の内容[C 関数](1)「一次関数」で(イ)「一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現すること」とある。また…
- ②本時の教材分析や素材の魅力(体育科については運動の特性)についても記述します。
- ③本単元(題材)で身に付けさせたい資質・能力について考察します。
例：生徒はこれまでに第1学年で比例の学習を行っているが、本単元では、表、式、グラフを単独で用いるだけでなく、相互に関連付けることで関数の特徴を考察する力を身に付けさせたい。また…

(2) 生徒観

- ①本単元(題材)の学習に直接かかわる生徒の実態をできるだけ3観点から考察します。音楽、美術については、単元・教材によって、一つの領域に重点化するのか、あるいは他の領域に加えて複数領域にするのかを決めます。「主体的に学習に取り組む態度」は、教科の好き嫌いではありません。自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意志的な側面を評価します。
- ②また、事前調査の結果をそのまま載せるだけでなく、日頃の観察を含めて、生徒の状況を本単元(題材)の目標に照らして実態を考察します。
- ③さらに、今までの学習で身に付いている資質・能力を記述します。また、不十分な点についても記述します。

(3) 指導観

- ①(1)「教材観」、(2)「生徒観」から、この単元全体・本時の学習内容をどう指導していくかを記述する。(単元の展開方針、単元の教材構造、順序、学習形態、個に応じた学習指導の視点など)
- ②また、「教材の系統性」について、本単元(題材)にかかわる前後(前学年、後学年)の内容を明らかにし、これまでの学習で身に付けてきた力やこれから身に付けさせたい力を系統的に示します。

4 単元の評価規準

下記の例は、中学校数学です。『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料第3編』（以下、参考資料第3編）P41を参照しています。各教科とも参考資料第3編を参照

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①一次関数について理解している。 ②事象の中には一次関数として捉えられるものがあることを知っている。 ③二元一次方程式を関数を表す式とみることができる。 ④変化の割合やグラフの傾きの意味を理解している。 ⑤一次関数の関係を表、式、グラフを用いて表現したり、処理したりすることができる。	①一次関数として捉えられる二つの数量について、変化や対応の特徴を見だし、表、式、グラフを相互に関連付けて考察し表現することができる。 ②一次関数を用いて具体的な事象を捉え考察し表現することができる。	①一次関数について考えようとしている。 ②一次関数について学んだことを生活や学習に生かそうとしている。 ③一次関数を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしている
ここでは、評価基準を観点ごとに2つ程度設定しています。これは目標の実現を図る上で重要な学習活動、評価場面を示していると同時に評価規準が細かくなりすぎないように意図しているものです。		

5 単元の指導と評価の計画(○時間)

時	ねらい(◎)・学習活動(■)	評価規準・評価方法		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・具体的な事象を捉え考察することを通して、問題の解決に必要な二つの変数を取り出し、それらの関係を表や座標平面上に表すことができるようにするとともに、一次関数の定義を理解できるようにする。	知①：行動観察		
2	・小単元1の学習を振り返って、「学びの足跡」シートに分かったことや疑問などを記述することを通して、その後の学習を見通すことができるようにする。	知②：小テスト ※小テストの結果は指導等に生かす。		態①③：「学びの足跡」シート ※小単元2以降の指導等に生かす。
15	・気温が標高の一次関数であるとみなし富士山6合目の気温を予測することで、現実的な事象から二つの数量を取り出し、理想化・単純化し、その関係を一次関数とみなして問題を解決することができるようにする。		・思②(行動観察)	態①～③：行動観察、「学びの足跡」
16	・小単元3や単元全体の学習を振り返り、「学びの足跡」シートに分かったことや疑問、問題の解決に有効である方法などを記述することを通して、学習の成果を実感できるようにする。		・指導に生かす評価 ○記録に残す評価 「指導に生かす評価」は、主に努力を要する生徒を確認し、その後の指導に生かすためのものとする。「記録に残す評価」は、学級全員の生徒の評価を、総括の資料にするためのものとする。また、単元の目標や単元の評価基準に照らして、それぞれの実現状況が把握できる段階を検討し、適切な時間を実施する。参考資料(3)第3編	
17	・単元全体の学習内容についてのテストに取り組み、単元で学習したことがどの程度身に付いているかを自己評価することができるようにする。	知①～⑤：単元テスト	思①②：単元テスト	

6 本時の学習 【○/□時間】

(1) 目標

「5 指導と評価の計画」の本時のねらいを踏まえて、本時で身につけた資質・能力について具体的に記述します。また、児童生徒がどのようなことができるようになったり、書けるようになったりすれば目標を達成したことになるのかなど具体的に示します。基本的には、観点別評価 B の「概ね満足できる」状況に沿う形で記述します。

(2) 本時の授業の工夫

①

②

本時の学習に、ねらいに迫る手立てや工夫した指導方法、学習形態等を具体的に示します。

(3) 展開

過程	学習活動	○指導上の留意点 ★予想される児童生徒の反応	評価規準 (評価方法)
導入 () 分	1 問題把握	学習活動や学習内容を記入します。	
展開 () 分	2 めあて	予想される『めあて』を記入します。	
	見通し	「予想される児童生徒の反応」、「努力を要する状況と判断される児童生徒への支援」や個に応じた支援の手立てを記入します。	
	3 自立的な活動(自力解決)	【努力を要する状況と判断される児童生徒への支援】 評価規準については、「概ね満足できる状況(観点別評価 B)」を、評価する場面を記載します。()には、評価方法を記載します。また、「5 単元の指導と評価」の評価規準と本時の評価規準との整合性を図ります。	【思②】 <u>概ね満足できる状況</u> ○表、式、グラフを相互に関連付けて考察し根拠を明らかにしながら表現できる。(行動観察)
	4 協働的な活動(比較検討)		
終末 () 分	5 まとめ	終末には、教科の特性に合わせて、「まとめ」や「振り返り」、適用問題(評価問題)を入れるなど、本時のねらいが達成できるように計画し、記入します。	
	6 適用問題		
	7 振り返り		

7 板書計画

実際に板書した写真等を添付しても構いません。

*留意事項

- ①模擬授業の際には、指導案と一緒に教科書のコピーやワークシートを添付する。
- ②数字は大きな項立てから、1、(1)、①の順に使っていく。
- ③余白は20～25mm程度、特に左側はファイルに止めることを考慮して余白を設定する。
- ④ページ番号を入れる。
- ⑤ポイントは10.5ポイントを基本に、題名、見出し等はそれより大きいポイントを使用する。
- ⑥特殊なフォントは使わない。(MS明朝・MSゴシック・強調可)

第 学年 道徳科学習指導案

令和〇年〇月〇日（曜日）〇校時

〇年 〇組 計〇名

授業者 〇〇 〇〇

指導者 〇〇 〇〇

印
印

1 主題名 「家族の心」

2 教材名 「お母さんのせいきゅう書」 内容項目 「C 家族愛，家庭生活の充実」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値

「敬愛する」とは、「親しみ」の情と「尊敬」の念を抱くことである。

(2) 児童の実態

本学級の児童は，家族について話してくれることが多い。例えば，

想定する学級をイメージして記述して下さい。

(3) 教材について

ブラッドレーとお母さんの家族愛を対照的に書いた教材である。ブラッドレーは家族のために仕事をしている。

4 本時の学習

(1) ねらい

家族を敬愛し，家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくらうとする。

(2) 授業の工夫・手立て

例①：～に着目させることにより，～に気付くことができるようにする。

例②：～と問うことで，～について考えることができる。

例③：～を用いることで，～できるようにする。

(3) 展開

過程	学習活動	○主な発問 ◎中心発問 ◇補助発問 予想される児童の反応・評価規準
導入 () 分	1 自分の家族がしてくれたことで、うれしかったことを思い出す。	予想される児童の反応（発言，考え，姿等）を具体的に記述します。
展開 () 分	2 「お母さんのせいきゅう書」を読み，家族のために尽くす親の心について話し合う。 3 4 自分の家族が，どのような気持ちで世話をしているか考える。	
終末 () 分	5 自分を振り返る。	

(4) 評価

【思・判・表】 家族が家族のために慈しみの心を持って働き，尽くしてくれることがわかったか。

(5) 板書計画

特別活動 学級活動（1）指導案

第○学年○組 学級活動(1)指導案

令和○年○月○日（○）第○校時

授業者 ○○ ○○ 印

指導者 ○○ ○○ 印

年間指導計画 ○学年○月議題 学級活動(1)学級や学校における生活づくりへの参画

1 議題

2 議題について

（1）児童（生徒）の実態

（2）議題選定の理由

3 第○学年及び第○学年の評価規準

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度

4 事前の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 ()			
○月○日 ()			
○月○日 ()			
○月○日 ()			
○月○日 ()			

5 本時の展開

(1) 本時のねらい

(2) 児童の活動計画 (別紙)

(3) 教師の指導計画

話合いの順序	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉

6 事後の活動

日時	児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
○月○日 ()			
○月○日 ()			
○月○日 ()			
○月○日 ()			

《参考・引用文献》

特別活動 学級活動(2)(3)指導案

第○学年○組 学級活動(2)(3)指導案

令和○年○月○日 (○) ()校時

授業者 ○○ ○○ 印

指導者 ○○ ○○ 印

1 題材名 「 」

2 題材について

(1) 児童(生徒)の実態

本題材に関わる児童の実態

(2) 題材設定の理由

3 第○学年の評価規準

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
①	①	①
②	②	②
③	③	③

4 事前の指導

児童(生徒)の活動 (いつ、どこで、何をする)	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿(◎) 【評価の観点】 (評価方法)
○	○	◎
○	○	◎

5 本時の活動

(1) ねらい

(2) 授業の工夫・手立て

(3) 展開

過程	児童(生徒)の活動	指導上の留意点・資料等	目指す児童(生徒)の姿(◎) 【評価の観点】 (評価方法)
導入 () 分	1 つかむ (1) (2)		◎
展開 () 分	2 さぐる (1) (2) 3 見つける (1)		
終末 () 分	4 決める		

(4) 板書計画

6 事後の活動

児童(生徒)の活動 (いつ、どこで、何をする)	指導上の留意点	目指す児童(生徒)の姿(◎) 【評価の観点】 (評価方法)
○	○	◎
○	○	◎

【指導案作成について】

- ・指導案作成の際には、沖縄県の指導案様式を参考に作成して下さい。
右の QR コードより沖縄県の指導案作成様式のページへ飛びます。
指導案作成のときにご活用下さい。



Ⅲ 授業観察および模擬授業の記録

授業観察および模擬授業の日程

授業観察 1	月	日
授業観察 2	月	日
模擬授業	月	日
授業観察 3	月	日

授業観察（１）の記録

月 日 曜日		今朝の 気分は	とても良い 4 …… 3 …… 2 …… 1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
					担 当 印

※所感・反省は 11 行以上書くこと

授業観察（２）の記録

月 日 曜日		今朝の気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
担 当 印					

※所感・反省は11行以上書くこと

模擬授業の記録

月 日 曜日		今朝の気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					

※所感・反省は11行以上書くこと

授業観察（３）の記録

月 日 曜日		今朝の気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
担 当 印					

※所感・反省は11行以上書くこと

授業観察の記録（予備）

月 日 曜日		今朝の気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
					担 当 印

※所感・反省は11行以上書くこと

模擬授業の記録（予備）

月 日 曜日		今朝の気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
	担 当 印				

※所感・反省は 11 行以上書くこと

IV 教育実習の記録

教育実習期間

小学校 8月22日（金） ～ 9月19日（金）

中学校 8月21日（木） ～ 9月19日（金）

予備日 9月22日（月） ～ 9月26日（金）

座席表

※作成した座席表を貼って活用して下さい。

月 日 曜日 出勤 : 退勤 :		今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月	日	曜日	今朝の気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温 ℃
出勤	:	退勤	:			
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月 日 曜日		今朝の気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温
出勤 : 退勤 :					℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月	日	曜日	今朝の気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温
出勤	:	退勤	:			℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月 日 曜日 出勤 : 退勤 :		今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い 1	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月 日 曜日 出勤 : 退勤 :		今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い 1…………2…………3…………4	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月 日 曜日 出勤 : 退勤 :		今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見			印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月 日 曜日 出勤 : 退勤 :		今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い 1…………2…………3…………4	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月	日	曜日	今朝の気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温
出勤	:	退勤	:			℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い 1	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月 日 曜日 出勤 : 退勤 :		今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月 日 曜日		今朝の気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温
出勤 : 退勤 :					℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見			印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月	日	曜日	今朝の気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温
出勤	:	退勤	:			℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見		印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4…………3…………2…………1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

月 日 曜日		今朝の気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温
出勤 : 退勤 :					℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容				
始 業 前					
1					
2					
3					
4					
昼食・休憩					
5					
6					
放 課 後					
所 感 ・ 反 省					
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間

※所感・反省は 11 行以上書くこと

担当教諭の 所 見			印

月 出勤	日 :	曜日 退勤	今朝の 気分は	とても良い 4.....3.....2.....1	とても悪い	検 温 ℃
時 限	実 習 事 項 ・ 内 容					
始 業 前						
1						
2						
3						
4						
昼食・休憩						
5						
6						
放 課 後						
所 感 ・ 反 省						
授業実習実施時間	時間	観察実習実施時間	時間	参加実習実施時間	時間	

※所感・反省は11行以上書くこと

⑩	担当教諭の 所 見	

令和7年度

教育実習の手引きと記録簿

発行者 琉球大学教育学部・附属小中学校
〒903-0213 沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
TEL 895-8317 FAX 895-8316

発行日 2025年4月
